

和名なし *Oliarus boninensis*

カメムシ目(半翅目)
ヒシウンカ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 5.5～6.0mm。体は茶褐色。複眼は大きく、頭頂は複眼の間で狭い。胸部背板の2本の隆起条と各腹節後縁は赤褐色、前翅は透明で翅脈は茶褐色、縁紋は大きく、先端付近の横脈は黒褐色。春～初夏に山地の湿性林の広葉樹上に見られるが、多くない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

山地の湿性林内の広葉樹上に見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

グリーンアノールの捕食および外来植物による樹林の劣化による個体数の減少が見られ、特に父島、母島では急激な減少が顕著である。グリーンアノールの侵入していない無人島域の個体群は小規模ながら安定していると思われる。これらの地域では、外来植物の排除を継続し、樹林の劣化を進めないことと、外来捕食者を持ちこまない措置が望ましい。

【関連文献】

Fennah, R. G., 1971.

(執筆: 松本浩一)



和名なし *Kallitaxila auster*

カメムシ目(半翅目)
ゲンバイウンカ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 4.0～4.4mm。体は淡緑色で頭部と胸部の隆起線は鮮緑色。頭頂は幅より短く丸く、前頭は幅よりやや長い。前翅は透明で垂前縁室が1室であることにより、小笠原産の同属他種より容易に区別される。4～10月に成虫が見られるが、夏に見られなくなり、冬に幼虫が広葉樹上に見られることから、年1化と考えられる。湿性林内のヒメフトモモ、シマモクセイなどの広葉樹上に見られ、小笠原の同属中では個体数が多い。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

低地から山地の湿性林内の広葉樹上に見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島の低地と父島では近年減少傾向が顕著である。グリーンアノールによる捕食の影響と思われるが、母島の比較的自然度の高い地域や無人島域では比較的普通に見られる。母島ではグリーンアノールの侵入が顕著になりつつあるため、その侵入を防ぐことが望ましい。

【関連文献】

Fennah, R. G., 1971.

(執筆: 松本浩一)



和名なし *Kallitaxila crini*

カメムシ目(半翅目)
ゲンバイウンカ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 4.3～4.5mm。体は緑から淡黄色。前翅は透明でやや緑色がかかり、翅脈は淡緑色。頭頂および前頭は幅と長さがほぼ同じ。前翅の垂前縁室は2室で、1室は2室の高さの半分で幅はほぼ同じ。山地の湿性林内のイヌビワ属、ウドノキなど広葉樹上に見られるが、他のゲンバイウンカ類より個体数が少ない。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

山地の湿性林に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1950年代に母島の低地から記録されたが、グリーンアノールの影響により生息域が縮小したものと思われ、現在では比較的自然度の高い地域を中心に見られる。同属の他種より個体数が少ないため、生息地では外来植物の排除による樹林の健全性の維持とグリーンアノールの侵入阻止が喫緊の課題である。

【関連文献】

Fennah, R. G., 1971.

(執筆: 松本浩一)



和名なし

Kallitaxila suturalis

カメムシ目(半翅目)
ゲンバイウンカ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 4.4 ～ 5.0mm、体は淡緑色。前翅は透明でやや緑色がかかる。頭頂および前頭は幅より長さがやや長い。前翅の垂前縁室は 2 室で、1 室は 2 室とほぼ同大かやや大きい。湿性林や海岸林に生息し、ヤロード、ハマボウなどの樹上に生息する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

湿性林や海岸林の樹林内から明るい林縁まで広く生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

分布域・生息環境ともに広いものの、海岸林や明るい樹林地ではグリーンアノールの高密度生息域と重なる部分が多く、父・母島では減少が顕著である。無人島域では個体数が比較的安定しているものの、トクサバモクマオウ、ギンネムなどの外来植物の拡大による生息域の減少が懸念される。

【関連文献】

Fennah, R. G., 1971.

(執筆: 松本浩一)



和名なし

Mesepora issiformis

カメムシ目(半翅目)
ゲンバイウンカ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 5.0 ～ 5.8mm。体は淡緑色。頭部は幅広く、前胸背よりはるかに長い。上翅は透明ですかに緑色を帯びる。上翅前縁は強く弧状で、先端部は細く丸まる。5 ～ 10 月に海岸植生や乾性低木林のクサトベラ、コハマジンチョウなどに見られ、年 1 化と思われる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

海岸植生のブッシュやマット状に発達した部分に多く、一部は乾性低木林のブッシュなどにも見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息域がグリーンアノールの高密度生息域と重なるため、父島、母島ではほぼ絶滅状態である。また、無人島域では個体群が維持されているが、生息地の多くは外来植物のトクサバモクマオウ、ギンネム、シチヘンゲなどにより海岸植生が圧迫されている。個体群維持には、本種以外にも多くの固有昆虫類が生息する無人島域の海岸植生の保全、特に外来植物の排除による樹林の健全化が望ましい。

【関連文献】

Fennah, R. G., 1971.

(執筆: 松本浩一)



和名なし

Orosanga dido

カメムシ目(半翅目)
ハゴロモ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 4.5 ～ 5.5mm。体は黒褐色。前翅は透明でやや褐色がかり、前縁結節に白点、その後方に洋ナシ型の茶褐色点、前縁後部と中央に弓状の褐色斑を持つが変異が大きい。春～夏に湿性林のシダ植物の上などに静止する個体が見られるが、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

自然度の高い山地の湿性林に見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島では近年ほとんど見られない。母島では一部の良好な樹林で見られるが、個体数の減少が顕著である。1950 年代に父島、母島の海岸付近で記録されているが、現在このような場所では見られない。もともと海岸付近から山地まで広く分布していたが、グリーンアノールの捕食の影響を受け、山地の湿性林に残存したものと思われる。生息地ではグリーンアノールの排除と再侵入阻止が必要である。また、グリーンアノールが未侵入の離島からの発見も望まれる。

【関連文献】

Fennah, R. G., 1971.

(執筆: 松本浩一)



和名なし ※備考 (p.411)

Orosanga laverna

カメムシ目 (半翅目)
ハゴロモ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 6 ～ 7mm。体は赤褐色で、前胸背および中胸背の基半は濃褐色。前翅は茶褐色不透明で、前縁結節付近に三角形の乳白色斑、後縁から中央部にかけて条状の乳白色斑を持つ。4 ～ 6 月に成虫が出現し、年 1 化と思われる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

自然度の高い湿性林の広葉樹上に見られる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島列島の無人島では発見できるものの、生息地が河川際などに発達する湿性林に限定されるため、個体数は少ない。軽微な差異で別亜種として記載された父島産個体群は近年全く見られず、グリーンアノールの捕食の影響を受けたものと思われる。母島では一部の良好な樹林で発見できるが、個体数の減少が顕著である。

【関連文献】

Fennah, R. G., 1971.

(執筆: 松本浩一)



和名なし

Orosanga triton

カメムシ目 (半翅目)
ハゴロモ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 4.5 ～ 5.5mm。体は茶褐色。額は狭く幅広い。前翅は透明で前縁にそって茶褐色の紋を持つことから、他種との区別は容易である。5 ～ 6 月に乾性低木林のイスノキ、コバノアカテツなどで見られるが個体数は非常に少なく、詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

山地の乾性低木林に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1950 年代に記録のある父島、母島からは原記載以来採集されておらず、グリーンアノールの影響により絶滅した可能性が高い。現在本種が唯一確認できる兄島の台地上の乾性低木林は、リュウキュウマツ、トクサバモクマオウ、ギンネム、シチヘンゲなどの外来植物の侵入による樹林の劣化と生息地の減少が懸念される。これら外来植物の駆除は行政により進められている。

【関連文献】

Fennah, R. G., 1971.

(執筆: 松本浩一)



オガサワラゼミ

Meimuna boninensis

カメムシ目 (半翅目)
ゼミ科

小笠原諸島 VU

環境省

【形態・生態】

体長 26 ～ 39mm。黒から黒褐色で淡緑から淡黄色の斑紋を持ち、覆面は白粉を装う。上翅は透明でかすかに緑色を帯びる。雄腹弁は長く、互いに離れ先端は狭く丸まる。7 ～ 12 月に成虫が見られ、特に 9 ～ 10 月に多く、各種広葉樹の高所からブッシュに静止する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

ほぼ小笠原群島全域に見られ、樹林を選ばず湿性林から乾性林まで広く生息する。

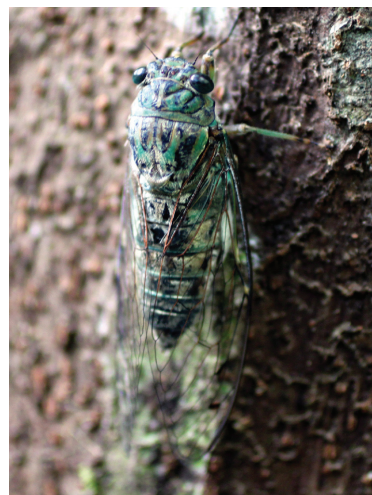
【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父・母島ではグリーンアノールの捕食により急激に減少しており、特に父島では生息地がわずかに残存する程度である。母島では 2000 年代初頭に広く見られたが、現在では一部地域に残る程度で、生息域の縮小が顕著である。父島、母島ではグリーンアノールの駆除、個体群が健全な離島部ではグリーンアノールを持ちこまない対策が望まれる。

【関連文献】

林正美・税所康正, 2011.

(執筆: 松本浩一)



和名なし

Aphrophora bizonalis

カメムシ目(半翅目)
アワフキムシ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 11.0 ~ 12.5mm。灰褐色で褐色斑を持つが変異が大きい。頭部と胸部前半および上翅中央前部が灰褐色で他は茶褐色の斑紋を持つ個体が多いが、全体灰褐色の個体もある。頭部先端は狭く丸いが突き出さない。初冬〜秋に広葉樹林のヒメフトモモ、モクタチバナなど広葉樹上で成虫が見られ、幼虫はタコノキの葉鞘部に泡をつくった巣を付ける。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

海岸付近から山地まで広範囲の広葉樹林に生息し、聳島列島では疎林や孤立木でも見られる。

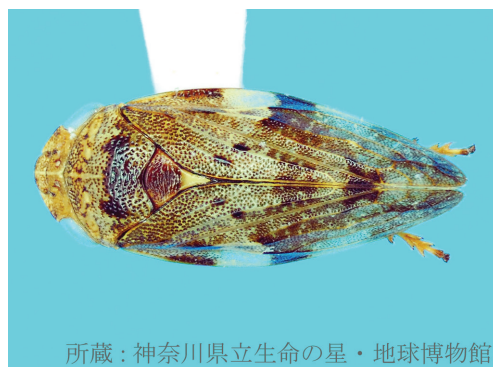
【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールの捕食によりほぼ絶滅状態である。離島部では広く見られるが個体数は少ない。タコノキの葉鞘部で幼虫の空の巣とグリーンアノール幼体が見られた観察例から、幼虫も捕食対象になっていると思われる。父島、母島ではグリーンアノールの駆除が必要であり、離島部ではグリーンアノールを持ちこまない対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

Synave, H., 1957.

(執筆: 松本浩一)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

和名なし

Aphrophora bicolor

カメムシ目(半翅目)
アワフキムシ科

小笠原諸島 NT

環境省

【形態・生態】

体長 9.4 ~ 9.8mm。体は小型で細く、淡黄色で全体に淡褐色のまだら模様を持つが変異がある。前翅は淡褐色の細紋を散布し、中央前部と先端付近は淡黄色の個体が多い。春〜秋に小笠原諸島各地の樹林で確認されており、ヒメフトモモ、シマイスノキなどの広葉樹上で見られる。*Aphrophora bizonalis* より個体数が多い。幼虫はヒメフトモモに泡をつくった巣を付けているのが観察されている。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

低地から山地の広葉樹林に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島ではグリーンアノールの捕食により急激に減少しており、絶滅が危惧される。離島部では樹林に普通に生息し、個体数も多い。離島部ではグリーンアノールを持ちこまない対策を講じることが望ましい。

【関連文献】

Synave, H., 1957.

(執筆: 松本浩一)



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

和名なし

Ikedana latipennis

カメムシ目(半翅目)
アワフキムシ科

小笠原諸島 DD

環境省

【形態・生態】

体長 15mm。原記載によれば形態的には同諸島産の *Hiraphora longiceps* に酷似し、同種の可能性がある。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

不明である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

1957年に父島から記載されたが、それ以来記録も報告もないため、生息の状況は不明である。

【関連文献】

Synave, H., 1957.

(執筆: 松本浩一)



所蔵: 農業環境技術研究所

オガサワラハナダカアワフキ

Hiraphora longiceps

カメムシ目(半翅目)
アワフキムシ科

小笠原諸島

DD

環境省

NT

【形態・生態】

体長 15mm。全身不規則な斑紋で覆われ、頭部がとがる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

父島で採集された個体に基づいて記載されて以来、記録がない。2000 年代初頭に母島で本種らしい個体が目撃されているが、不確実である。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

現在は生息が確認されていない。従来の記録でもグリーンアノールの侵入している父島、母島からのみ発見されていることから、再発見の可能性は低いと思われる。

【関連文献】

Matsumura, S., 1940.



©SEHU,
Hokkaido Univ.

(執筆者: 松本浩一)

ムニンヤツデキジラミ

Cacopsylla boninofatsiae

カメムシ目(半翅目)
キジラミ科

小笠原諸島

NT

環境省

VU

【形態・生態】

淡黄色の体に淡褐色の斑紋を持つ。翅は透明で前翅はやや黄色がかかる。小笠原固有のムニンヤツデを寄主とし、年1化で春に寄主上で交尾産卵する。幼虫は寄主の新芽を吸汁し、初夏に羽化する。夏以降は成虫が寄主を離れ、広葉樹上で生活し、成虫越冬する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

父島、母島および母島属島から記録がある。山地湿性林に生息し、分布域は極めて狭い。北硫黄島の記録もあるが、採集地が廃村の人家周辺で寄主植物が本来非分布と考えられることから、父島か母島から植物とともに持ち込まれたものと思われる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島、母島では寄主植物の減少が見られ、グリーンアノールの捕食の影響もを受けていると思われる(近縁のギンネムキジラミの捕食観察例あり)。寄主植物の保全とともに、グリーンアノールの排除も望まれる。

【関連文献】

Inoue, H. & Y. Miyatake, 2001; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆者: 松本浩一)



チャマダラキジラミ

Cacopsylla maculipennis

カメムシ目(半翅目)
キジラミ科

小笠原諸島

NT

環境省

VU

【形態・生態】

体は淡黄色から淡褐色。前翅は透明で茶褐色の斑紋を散布する。小笠原固有のシロトベラ、ハハジマトベラを寄主とする。成虫は初夏に寄主上で交尾産卵する。幼虫は新芽の葉裏に見られ、夏前に羽化しその後寄主から離れ広葉樹上に分散する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

母島の山地湿性林、父島の記録がある。寄主植物の株数はやや多いが、本種の生息地は極めて少なく、父島2箇所、母島4箇所のみである。北硫黄島からの記録は寄主植物とともに持ち込まれたものと思われる。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

前種の寄主植物が林内の林床に生育するのに対し、本種の寄主植物は林縁部など比較的明るい場所に多いため、グリーンアノールの捕食の影響をより強く受けていると考えられる。生息地周辺では寄主植物の保全とともに、グリーンアノールの排除も望まれる。

【関連文献】

Inoue, H. & Y. Miyatake, 2001; 苅部治紀ら, 2004.

(執筆者: 松本浩一)



ケブカオヨギカタビロアメンボ

Xiphovelia boninensis

カメムシ目(半翅目)
カタビロアメンボ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

体長 1.9 ～ 2.4mm。黒色から黒褐色で黒色の短毛と顕著な長毛を密に装う。体型は長円形から楕円形。詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林内の流水の表面で生活する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息地である父島・母島の小河川は、1968 年の日本復帰後のダムや堰堤の整備により減少したと考えられる。外来生物の捕食による影響は不明である。

【関連文献】

Esaki,T. & S.Miyamoto, 1959; 環境省 (編), 2006.



(執筆: 岸本年郎)

オガサワラミズギワカメムシ

Micracanthia boninana

カメムシ目(半翅目)
ミズギワカメムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

NT

【形態・生態】

体長 3.7 ～ 4.2mm。光沢のある黒色。体型は長楕円形。前翅革質部の前縁沿いに 2 個の淡黄色紋がある。長翅型のみが知られている。地表面や斜面、岩崖の表面を素早く走り回り、小動物を捕食するものと推測される。詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

谷沿いの湿った地表面や斜面、水がしたたる岩崖の表面で生活する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息地である父島・母島の小河川は、1968 年の日本復帰後のダムや堰堤の整備により減少したと考えられる。外来生物の捕食による影響は不明である。

【関連文献】

川井禎次・谷田一三 (編), 2005; 環境省 (編), 2006.



(執筆: 岸本年郎)

オガサワラチャイロカスミカメ

Lygocorias boninensis

カメムシ目(半翅目)
カスミカメムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 4.5 ～ 5.5mm。赤味がかった褐色の背面に黒褐色の斑紋を持つが、色彩には変異がある。背面には銀白色と褐色の毛が混在する。詳しい生態は不明であるが、多化性であると推測される。灯火や花に飛来する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林や疎林に生息し、樹上に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

父島・母島では属島に比べて個体数が少なく、グリーンアノールの捕食の影響が懸念される。

【関連文献】

友国雅章 (監修), 1993.



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆: 岸本年郎)

ハハジマハナカメムシ

Kitocoris hahajima

カメムシ目(半翅目)
ハナカメムシ科

小笠原諸島

VU

環境省

VU

【形態・生態】

体長 1.7 ~ 1.9mm。黒色で脚と上翅は黄褐色、触角第 1 節は全体が淡色で、半鞘翅縁部と後腿節の基半部は暗化する。詳しい生態は不明である。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林、疎林、林縁、草地などの植物の上に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

母島の耕作地や海岸部では外来種のタイリクハナカメムシが増加しており、競合の結果、本種が減少し森林や山地に生息域が狭まっている。

【関連文献】

Yasunaga, T., 2000; 安永智秀ら (編), 2001.



(執筆: 岸本年郎)

和名なし ※備考 (p. 411)

Gardena boninensis

カメムシ目(半翅目)
サシガメ科

小笠原諸島

DD

環境省

NT

【形態・生態】

体長 10.4 ~ 12.5mm。褐色から暗褐色。細長い体型で触角と脚は極めて長い。前胸は比較的短く、長さは頭部の 1.1 ~ 1.2 倍。無翅型のみが知られている。詳しい生態は不明であるが、草間の地表近くで他の小動物を捕食していると考えられる。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

林縁や湿性草地の草本の根際に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

生息状況の詳細は不明である。父島ではノヤギが草本を採食した影響で生息地が減少している可能性がある。

【関連文献】

Ishikawa, T., 2005.



(執筆: 岸本年郎)

ルリカメムシ

Plautia cyanoviridis

カメムシ目(半翅目)
カメムシ科

小笠原諸島

NT

環境省

NT

【形態・生態】

体長 8.0 ~ 10.0mm。本土のチャバネアオカメムシに似るが、光沢の強い緑青色で前翅は灰白色により区別される。各種の植物に寄生する。

【分布の概要】

小笠原諸島

【小笠原諸島における生息環境】

樹林、疎林、林縁、草地などの各種植物上に生息する。

【小笠原諸島における生存に対する脅威と保全上の留意点】

属島では普通に見られるものの、父島、母島では個体数が減少している。グリーンアノールの捕食の影響が原因と考えられる。

【関連文献】

友国雅章 (監修), 1993.



所蔵: 神奈川県立生命の星・地球博物館

(執筆: 岸本年郎)

【種名・学名などの準拠文献】

和名、学名、配列は、岸本年郎による小笠原諸島昆虫目録（暫定版 ver.20091201）を基本とし、評価者の判断により修正を加えた。

【備考】レッドリスト改定時における評価の根拠など補足情報

和名	備考
和名なし (<i>Orosanga laverna</i>)	亜種 <i>O. l. vivinalis</i> を認める見解もあるが、ここでは種として評価した。

【関連文献】

- Esaki, T. & S. Miyamoto, 1959. Veliidae of Japan and adjacent territory (Hemiptera-Heteroptera) 2. *Sieboldia*, 2: 91-108.
- Fennah, R. G., 1971. Homoptera: Fulgoroidea Supplement. *Insects of Micronesia*, 6(8): 563-609.
- 林正美・税所康正, 2011. 日本産セミ科図鑑. 誠文堂新光社, 223pp.
- Inoue, H. & Y. Miyatake, 2001. Taxonomic study of the superfamily Psylloidea (Homoptera, Sternorrhyncha) on the Ogasawara (Bonin) Islands. Part 1, Aphalaridae, Psyllidae and Carsidaridae, with descriptions of four new species. *Entomological Science*, 4(4): 459-475.
- Ishikawa, T., 2005. The thread-legged assassin bug genus *Gardena* (Heteroptera: Reduviidae) from Japan. *Tijdschrift voor Entomologie*, 148(2): 209-224.
- 環境省 (編), 2006. 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 5. 昆虫類. 財団法人自然環境研究センター. 246 pp.
- 荻部治紀・高桑正敏・須田真一・松本浩一・岸本年郎・中原直子・長瀬博彦・鈴木互, 2004. 神奈川県立生命の星・地球博物館が行った 1997-2003 年の調査で得られた小笠原の昆虫目録. 神奈川県立博物館調査研究報告 (自然科学), (12): 65-86.
- 川合禎次・谷田一三 (編), 2005. 日本産水生昆虫一科・属・種への検索. 東海大学出版会. 1342 pp.
- Matsumura, S. 1940. New species and genera of Cercopidae in Japan, Korea and Formosa, with a list of the known species. *Journal of Faculty of Agriculture Hokkaido Imperial University*, 45: 35-82.
- Synave, H., 1957. Homoptera: Cercopidae. *Insects of Micronesia*, 6(4): 213-230.
- 友国雅章 (監修), 1993. 日本原色カメムシ図鑑—陸生カメムシ類—. 全国農村協会. 380 pp.
- Yasunaga, T., 2000. Anthocorid bugs of the tribe Oriini (Heteroptera: Anthocoridae) found in Ogasawara (Bonin) Islands, Japan. *Proceedings of Entomological Society of Washington*, 102: 353-359.
- 安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫 (編), 2001. 日本原色カメムシ図鑑—陸生カメムシ類—第 2 巻. 全国農村協会. 350 pp.